

# 四国地域連携による女性の学び支援のための研究協議会プロジェクト

## 四国地域の活性化を促進する女性のリカレント教育

### 女性の限りない力で社会を変える

#### アンケート集計結果

【実施日】平成30年2月2日（金）

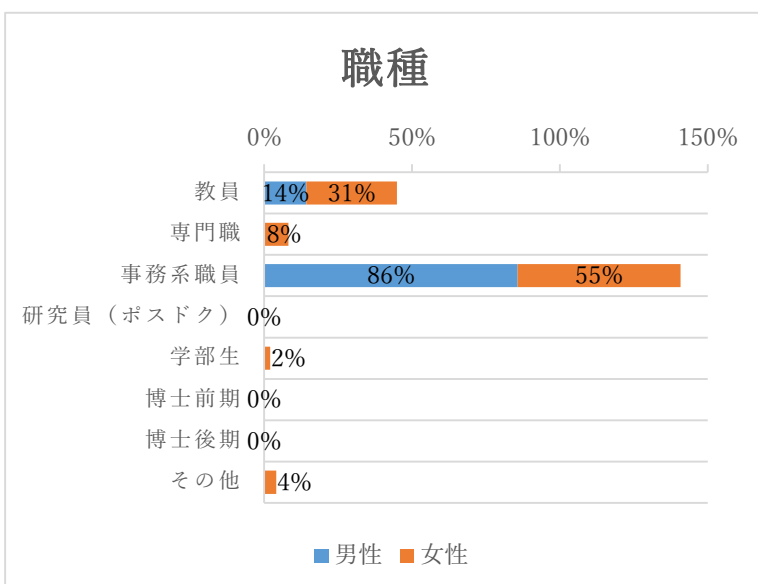
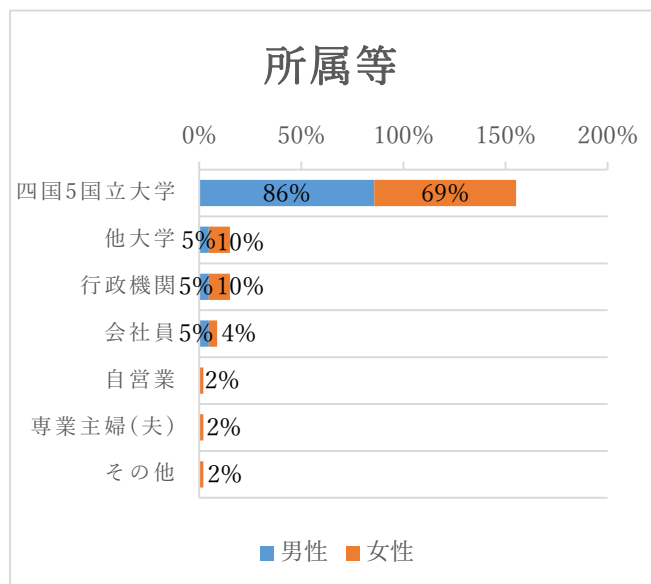
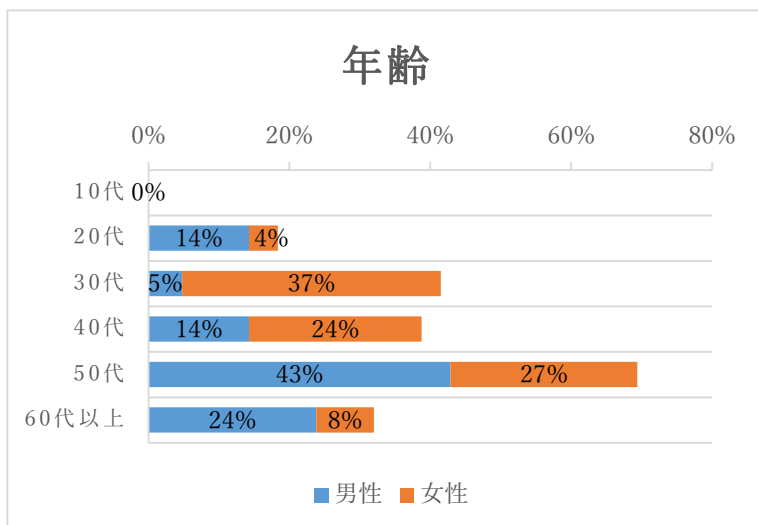
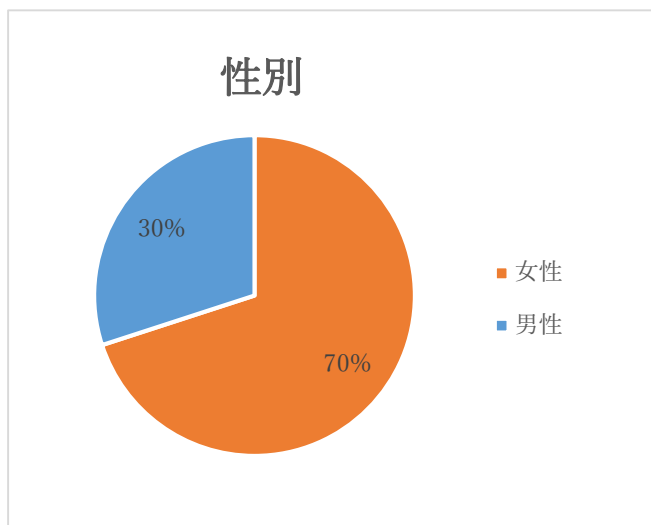
【時間】13:30~16:30

【実施場所】蔵本キャンパス 日垂メディカルホール

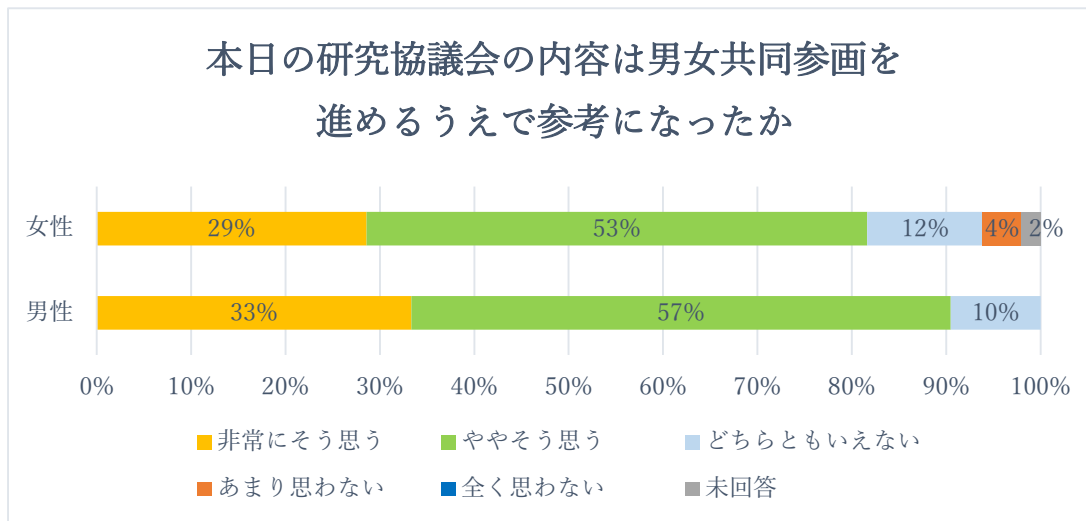
【回答率】(男性)72%

(女性)66%

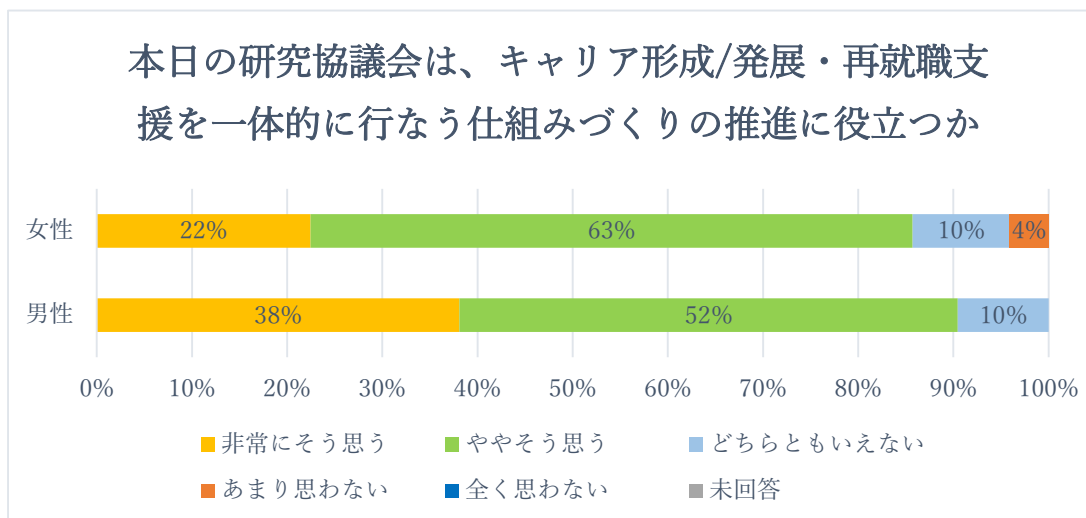
問1. あなたご自身のことについてお伺いいたします。該当する□にチェックをいれてください。



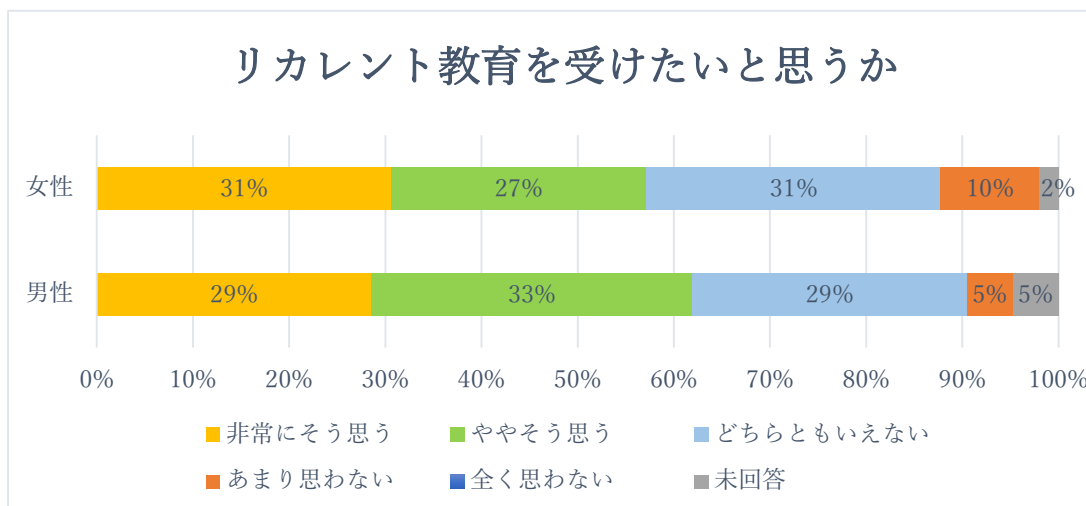
問2. 本日の研究協議会の内容は、男女共同参画を進めるうえで参考になりましたか。



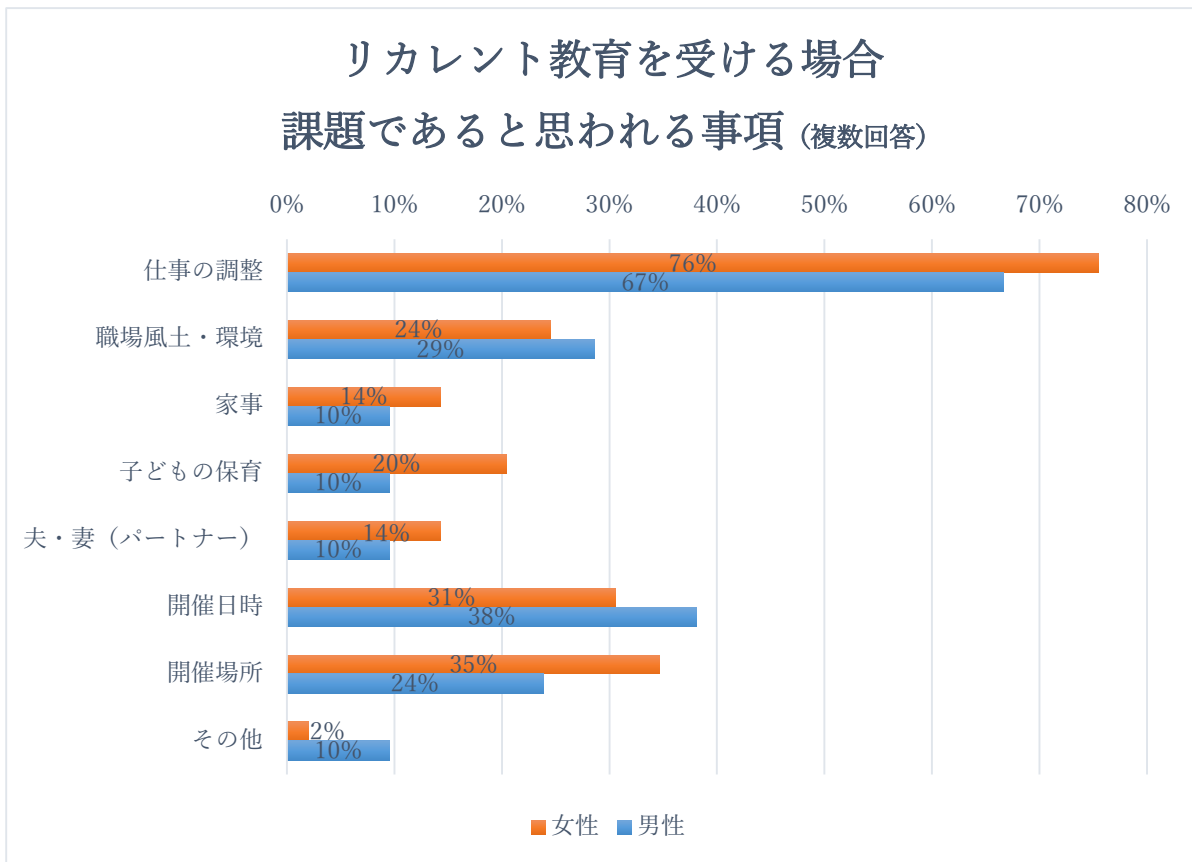
問3. 本日の研究協議会は、キャリア形成/発展・再就職支援を一体的に行なう仕組みづくりの推進に役立つと思いますか。



問4. あなたはリカレント教育を受けたいと思っていますか。



問5. あなたがリカレント教育を受ける場合、課題であると思われる事項についてお教えてください。



【その他：女性】

- ・費用

等

【その他：男性】

- ・経済的な事柄も含まれるのでは
- ・既に受けている

等

問6. その他、ご自由にご感想やご意見がございましたらご記入ください。

【女性】

- ・リカレント教育というか、研究留学がしたいです。女性が女性の働く環境を変えようとしているのが強く伝わってきました。今、男性がどのように感じてうるのか、特に今すでに役職についている男性が「男女参画について」どう考えているのかをもっと知りたいです。
- ・リカレント教育について、女性を受け入れる設備やその他の投資を行い、しっかりとした受け入れ体制を整えることにより、大学の収入源として開発していく必要があると感じた。
- ・パネルディスカッションでは色々なお立場の話が伺えて大変参考になりました。

- ・リカレント教育を受けた先を想像してもらうことが重要という点が心に残った。
- ・長く大学で教育職として働きましたが、組織自体が男社会であると強く感じました。職位があがっても女性の割合は少なく、もっと管理職として女性が進出すべき時代になることを願っています。男性の意識改革も必要ですが、女性自身の意識改革も必要。男女平等だと思って入職しても、そのうちに組織に染まってしまって平等の意識が低くなっている傾向があるのではないのでしょうか。
- ・まだまだ子育てしながら仕事を続けるのは日本では不利だと思います。米国留学時は周りの女性はもっと自由に仕事をしており、男性もそれを認めていました。日本は遅れていりと感じます。ただ一番の問題は、男性も日本では忙し過ぎると思います。これでは女性のことを考えることができないと感じます。

等

### 【男性】

- ・生涯学習におけるリカレント教育についても言及してほしかった。100才という年代を仕事の上でどのように理解するのか課題でもある。
- ・男女共同参画を推進するためにリカレント教育という切口でディスカッションしていただいて、大変参考になりました。ありがとうございました。
- ・よく考えた企画だったと思います。
- ・貴重なご講演でした。男女の働き方、共働を考える良い機会になりました。
- ・私は夫婦共働きで、妻の帰りが遅いため、基本的な家事は全て担当しています。しかし心のどこかで「家事は女性がすべき」と思っていました。今回の講演を聞いて、私が普段家事をしていることは特別なことではなく、妻が当たり前のようにしてくれる掃除等にもっと感謝していくべきだと感じました。
- ・女性が活躍できる職場をいかにつくるか、課題をあらい出し、検討したいと考えさせられました。ありがとうございます。

等